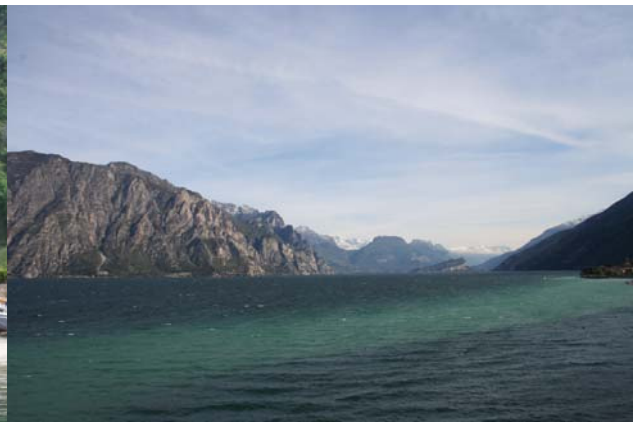
春の遠征はＩＳＡＦワールドまで

イエールオリンピックウィーク終了後、イングリングチームは帰国、レーザー／ラジアルチームはMOＬ倉庫でコンテナ積み込み後にオーストリアのＩＳＡＦワールドへ移動、４７０チーム、４９ｅｒ石橋組、ＲＳＸ女子の小菅はイタリアのガルダ湖での合宿をへてＩＳＡＦワールドへと移動をしました。

マルチェスネのトレーニング施設



ガルダ湖は両岸を高い山で挟まれています

ヨーロッパの選手達は大会と大会の間に自宅へもどり、休息や地元での練習を行ってから次の大会へと出かけますが、日本選手はいちいち日本へ戻ることもできませんから、ヨーロッパのどこかで時間を有効に使うことをしていかなければなりません。南仏のイエールからオーストリアのニューシーダル湖へ行く途中にイタリアチームが基地としているガルダ湖があり、今回はマルチェスネの施設を使っての合宿となりました。ＲＳＸの小菅にとっては、９月の世界選手権がマルチェスネよりも少し北にあるトルボレで開催ですから、下見を兼ねていました。

４７０チームは選手が練習課題を考えて練習内容を決めていくという自主性を大切にした内容でしたが、午前中に北風が吹いている間にダウンウィンドの練習をしながら南へさがり、風がなくなった間に昼食、午後から南風になったらまたダウンウィンドで戻ってくるという「１日中ダウンウィンド」を計画していた中村コーチにとっては、毎朝１０時になるとピタっと止んでしまう風、そして、通年よりも弱い風のコンディションが物足りないものとなりました。しかし、遠征も後半に入り、疲れがでてきたチームにとっては、ゆっくりとペースを整える意味で適度な練習となったようです。

ＩＳＡＦワールドは５月１０日からでしたが、日本から直接オーストリアへ入る選手が５月５日頃から到着、レーザー・ラジアル組は６日、ガルダ組が７日に現地入りして、総勢２０名の日本チームで、ＩＳＡＦワールドを戦いました。

ＩＳＡＦワールドは４年に一度、国際セーリング連盟（ＩＳＡＦ）が主催する全艇チャーターボートを使い、各国２艇のエントリーで行われる大会です。日本からはシングルハンド男子（レーザー）に飯島、永井、シングルハンド女子（ラジアル）に石川、長谷川、ＲＳＸ男子に富澤、合志、ＲＳＸ女子に小菅、須長、ダブルハンド男子（４７０）に松永・上野組、関・柳川組、ダブルハンド女子（４７０）に田畑・栗田組、吉迫・大熊組、４９ｅｒに石橋･牧野組が出場しました。

茶色の水が不思議なオーストリアの湖

レースは前半が予選、後半にＩＳＡＦランキング上位１０艇が加わっての決勝レースがあり、予選の成績から上位半分だけが決勝レースに進みます。レースの詳細については、ＪＳＡＦホームページのレースレポートをご覧ください。
http://www.jsaf.or.jp/sailing/2006/isaf-world/

開会式で揃いのウエアーを着て待機中

軽風でのレース展開が課題の富澤（ＲＳＸ）

「メダルレース、大好きです（関）」

「メダルレースでトップとりました！（吉迫・大熊組）」

春の遠征はＩＳＡＦワールドで一区切りです。マヨルカ、イエール、ＩＳＡＦと３大会を終えて、「４７０男女はイエール、ＩＳＡＦで男女ともにメダルレースに残ることができました。特に女子はイエールで吉迫・大熊が表彰台にあがり、近藤艇を加えた２艇がメダルレースに残りました。ＩＳＡＦでも１１位と惜しくも残れなかった田畑組と、複数のチームがトップ１０に入る勢いで頑張っています。男子の関組も確実にトップ１０に入り、特にメダルレースという勝負どころでの精神的な強さが見ていて、たのもしく感じるようになりました。ＲＳＸ男子はＩＳＡＦゲームが初めてのヨーロッパでの大会となりました。予選ではまずまずの走りでレースができて２艇ともゴールドフリートに入りましたが、決勝になりトップレベルの選手が数多く出るようになると、もう前を走らせてもらえませんでした。上位との技術差、レース展開の能力の差がでていたと思います。ＲＳＸ女子も同じで、あと１段ステップをあがらないと、トップレベルで勝負していくことができません。また、シングルハンドは数が多いので、予選から必死でレースを戦わなければ結果にはつながりません。スタートで出られていないことが

気になりますが、昨年からスタート練習や基本練習を合宿でこなしてきた４７０が今年、その成果がでていますから、レーザーも課題を明確にしてクリアしてほしいと思います。レーザーとラジアルは２段階上がらないといけないレベルです。４９ｅｒの石橋組はとにかく急成長していますが、まだまだ基本技術をしっかり見につけている段階でしょうか。でも、ＲＳＸや４９ｅｒが予選でトップを引いた日は嬉しかったですね。（中村コーチ）」

メダルレースは岸から見える場所で行われ、４７０男子のレースを応援しているＴｅａｍ　Ｊａｐａｎ

北京を目指しての新ＮＴが結成されてから、初めてのヨーロッパ遠征となりましたが、遠征の宿舎をまとめたり、移動を協力して動いたりしながら、選手同士、クラスを超えた横のつながりができ始めました。自分達が日本を代表するチームだという意識を少しずつながらも持つことができましたので、五輪本番までには強いＳａｉｌｉｎｇ　Ｔｅａｍ　Ｊａｐａｎへと成長していきたいものです。

各クラスの今後の活動予定は世界選手権とオリンピックテストイベントになります。

６月４日―１１日　　４９ｅｒ世界選手権（フランス・エクス・ル・バン）
６月３０日―７月８日　イングリング世界選手権（フランス・ラ・ロシェル）
７月２８日―８月４日　ラジアル世界選手権（アメリカ・マリーナデルレイ）
８月１８日―３１日　　オリンピックテストイベント（中国・青島）
９月４日―１３日　　４７０男女世界選手権（中国・日照）
９月１０日―２０日　　レーザー世界選手権（韓国・済州島）
９月２０日―３０日　　ＲＳＸ男女世界選手権（イタリア・トルボレ）

（写真：中村健次　　レポート：斉藤愛子）